

日本書紀に記載される 179 万 2470 年の解釈

高見 友幸

大阪電気通信大学 総合情報学部

takami@osakac.ac.jp

キーワード 日本書紀, 紀年論, 神武天皇, 天日槍, 卑弥呼, 天孫降臨

1 はじめに

日本書紀では、紀年と人物と事績とが複雑に絡まり合う中に、しばしば奇妙な数値が現れる。しかし、このような数値は創話の一部として適当に選ばれたものではなく、ほぼすべてが意図されたものであると考えてよい。また、数値的な奇妙さはないとしても、その数値が紀年を導く計算に使われることも多い。そうした数値を事績と合わせて計算処理することで、日本書紀にはいくつもの歴史シナリオの隠されていることがわかる。詳細については、参考文献 [1]~[5] を参照されたい。それらのシナリオが「史実」なのかどうかはともかく、それは日本書紀の編纂者が後世に伝えようとした内容であることには違いない。我々は編纂者の意図を汲み取ることから始めなければならないと思う。

たとえば、以下の事例では、記載される数値は「定量的な」情報として計算に使われる。そのため、数値は記載されたとおりの数値でしか意味を持たない。

- 孝元天皇の在位期間 57 年
- 崇神天皇の宝算 120 歳
- 景行 27 年に日本武尊が 16 歳
- 垂仁 3 年に天日槍が現れ、垂仁 88 年に天日槍の昔話が記載される
- 成務 5 年、仲哀天皇が 16 歳で皇太子になる
- 允恭 7 年に雄略天皇が誕生する

本稿では、日本書紀に記載される数値の一例として、179 万 2470 という数値について考察する (第 2 節)。また、別の事例として、日本武尊と武内宿禰に関連する数値データを考察する (第 3 節)。

2 179 万 2470

179 万 2470 という数値は天孫降臨の年から神武天皇が東征を開始した年までの年数として記載されている (神武天皇即位前紀)。この数値に何らかの意図が隠されてい

るのかどうか。この数値は巨大すぎて、誰しも意味のない数値と見るはずである。ところが、以下に示すとおり、この数値は意図された計算結果なのである。

以下では、定数 $a = 1792470$ として話を進める。この数値は、神武天皇の東征開始日である紀元前 667 年 10 月 5 日の事績との関連の中で記載される。

本題に入る前に、定数 a とは関係しないが、東征開始日が意図された数値設計であることを示しておこう。紀元前 667 年 10 月 5 日は、グレゴリオ暦では紀元前 667 年 10 月 27 日となる。10 月 27 日から年末 12 月 31 日までの日数は 66 日であることがわかる ($66 = 5 + 30 + 31$)。つまり、紀元 0 年 1 月 1 日から数えると (西暦 0 年の存在を想定した)、この日は 666 年と 66 日なのである。このように数字 6 がきれいに並ぶという結果は、明らかに設計の結果であると言えるが、この点については、今後の関連論文に譲りたい。

さて、日本書紀では、定数 a を神武天皇東征開始日から天武天皇の即位決定日までの年数 b と関連づけていることが、以下のようにしてわかる。

天武天皇の即位決定の日を天智朝の後継者である大友皇子の薨去が確定した日 (天武 1 年 7 月 23 日: 西暦 672 年 8 月 14 日) であると考えてみよう。1 月 1 日から 8 月 14 日までの日数は 226 日である。この場合、西暦で紀元前 667 年 10 月 27 日から 672 年 8 月 14 日までの日数は 488662 日 ($= (666+672) \times 365 + (66+226)$) であり (西暦 0 年の日数を含む)、したがって、年数 $b = 488662/365 = 1338.80$ である。 b の 2 乗は 1792385 であり、 a との誤差は 0.005% である。なお、神武東征の紀元前 667 年 10 月 5 日は讖緯説どおり辛酉の日であるが、仮に天武 1 年 8 月 2 日 (西暦 672 年 8 月 23 日) の辛酉の日までで計算すれば、 $b = 488671/365 = 1338.83$ 、 b の 2 乗はほぼ 1792470 に等しい (a との誤差は 0.001%)。このように、1792470 という数値は計算結果と見てよいであろう。天武天皇は、神武天皇を天孫に、自身を神武天皇に投影させたということなのではないか。

3 日本武尊と武内宿禰

景行紀は、景行天皇自身の記述よりも日本武尊の記述が多い。日本書紀における日本武尊の重要性がこの点においても見える。日本武尊に関連する数値のテキストマイニングにより得られた結果を以下に列挙する。なお、本節では、原日本書紀の紀年が必要となる。稿末に原日本書紀の年表を置いた。原日本書紀の作成については、文献 [5] を参照されたい。

- 1) 日本武尊は 323 年に誕生した
- 2) 武内宿禰は 323 年に誕生した
- 3) 成務天皇は 323 年に誕生した
- 4) 仲哀天皇は 323 年に誕生した

1) については、景行 27 年条に日本武尊が 16 歳とあり、この記載から、誕生年が景行 12 年（原日本書紀 323 年）であることがわかる。2) は、景行 3 年条に武内宿禰が 9 年後に誕生した旨の記載があり、景行 12 年の誕生がわかる。3) は、成務 3 年条に成務天皇と武内宿禰が同じ日に生まれたとあることから、成務天皇の誕生も景行 12 年となる。4) は、成務 48 年（原日本書紀 353 年）に仲哀天皇が 31 歳で立太子していることから、仲哀天皇の誕生年が 323 年であることがわかる。

日本武尊、武内宿禰、成務天皇が同じ年の誕生であることは、紀年復原なしに日本書紀の記載のみから導くことができるが、誕生年が 323 年であること、および 4) の結果を得るには、復原された紀年の情報が必要となる。なお、原日本書紀では成務天皇の崩御年が古事記の崩年干支とほぼ一致することにも注意されたい。

ここで、仮に、日本武尊、成務天皇、仲哀天皇、武内宿禰の 4 人が同一人物であるという想定をしてみよう。日本書紀のテキストと以下の点で整合していることがわかる。

日本武尊の身長は 1 丈（景行 2 年条）、仲哀天皇の身長は 10 尺（仲哀天皇即位前紀）との記載がある。つまり、同じ身長なのである。身長は、あり得ない大きさ（1 丈 = 10 尺 = 約 3 メートル）の数値となっており、同じ身長であることを強調しているのであろう。

成務紀には、他の天皇紀に通常あるような、即位後の宮の位置、皇后、妃、子の記載が全くない。これは、成務天皇が仮想の人物であることを物語る。

日本武尊は 30 歳で薨去したと記載される（景行 40 年条）。したがって、誕生年 323 年から計算すれば、352 年薨去となる。ところで、日本武尊の 30 歳薨去を引き継ぐかのように、翌年 353 年、31 歳の仲哀天皇が皇太子となる。日本武尊は、日本書紀の中では名前だけが消えたの

であり、薨去後も仲哀天皇として生き続けたと見ればよい。日本書紀の記載では、仲哀天皇は日本武尊の子であるとされるが、この記載は、2 人が同じ誕生年であることから史実ではあり得ない。上述のとおり、日本武尊 = 仲哀天皇との想定でよいであろう。

応神 9 年条に甘美「内宿禰」の記載がある。「内宿禰」をひと続きのテキストと見れば、「武内」でなく「武」を名前と見るべきかも知れない。このようにして、日本武尊と武内宿禰の同一性を、日本「武」尊と「武」内宿禰という名前でもって暗示している可能性がある。

日本武尊と成務天皇はどちらも景行天皇の子とされる。また、武内宿禰は武雄心命の子である（景行 3 年条）。4 人が同一人物であることを想定した場合、逆算的に考えれば、景行天皇 = 武雄心命であればよい。これを支持する記載が日本書紀の中にあるかどうか問題となろう。

4 おわりに

日本書紀に記載される数値には何らかの設計意図がある場合が多い。日本書紀を読解するときには、そのことを十分に意識するべきである。本稿では、そうした事例のうちの 2 件を示した。

なお、本稿の第 2 節と第 3 節の内容については新規性はありません。Web ページや市販の単行本から様々な解説を参照させていただきましたが、どの情報が 1 次情報なのか不明のため、情報元の引用は省かせていただきます。

参考文献

- [1] 高見友幸, 日本書紀の紀年数値解析 ~日本武尊（やまとたけるのみこと）が天皇だった可能性~, 第 8 回 IIARS 全国大会講演予稿集, 2023.
- [2] 高見友幸, データサイエンスとしての日本書紀紀年問題 神武天皇, 崇神天皇, 応神天皇, 神功皇后の解説, IIARS 第 14 回研究会講演論文集, 28-35, 2023.
- [3] 高見友幸, ジグソーパズル「原日本書紀」の解法, ゲーム学会「ゲームと教育」研究報告, 17-23, 2024.
- [4] 高見友幸, ジグソーパズル「原日本書紀」の解法 2, ゲーム学会第 22 回全国大会講演論文集, 10-13, 2024.
- [5] 高見友幸, 日本書紀の紀年問題に関する考察 ~天皇の誕生年と即位年の解説~, 日本国史学第 20 号, 93-105, 2024.

原日本書紀 (2024/02/18)

288	戊申			BC255	孝靈36年	3	孝元天皇 皇太子19歳	
289	己酉			BC215	孝靈76年	4	- /106歳	
290	庚戌	BC214	孝元元年	1				
291	辛亥	BC211	孝元4年	2				
292	壬子	BC209	孝元6年	3				
293	癸丑	BC208	孝元7年	4				
294	甲寅	BC193	孝元22年	5	開化天皇 皇太子16歳			
295	乙卯	BC158	孝元57年	6	- /57歳			
296	丙辰						BC157	開化元年 1 56/4歳
297	丁巳						BC153	開化5年 2
298	戊午						BC152	開化6年 3
299	己未				崇神天皇 皇太子19歳		BC130	開化28年 4
300	庚申						BC98	開化60年 5 115/63歳
301	辛酉	BC97	崇神元年	1	53/101/52歳	101歳 --> 201年：崇神天皇 誕生		景行天皇・成務天皇 誕生
302	壬戌	BC95	崇神3年	2				
303	癸亥	BC94	崇神4年	3				応神天皇 誕生
304	甲子	BC93	崇神5年	4				
305	乙丑	BC92	崇神6年	5		BC29	垂仁元年	1 42/55/45歳
306	丙寅	BC91	崇神7年	6	国内平穩	BC28	垂仁2年	2 皇后 狭穗姫命 誉津別命 誕生
307	丁卯	BC90	崇神8年	7		BC27	垂仁3年	3 天日槍 現る
308	戊辰	BC89	崇神9年	8		BC26	垂仁4年	4
309	己巳	BC88	崇神10年	9	武埴安彦の謀反	BC25	垂仁5年	5 狭穗彦王の謀反
310	庚午	BC87	崇神11年	10		BC23	垂仁7年	6
311	辛未	BC86	崇神12年	11	天下太平	BC15	垂仁15年	7 皇后 日葉酢媛命
312	壬申	BC81	崇神17年	12		BC07	垂仁23年	8 誉津別命 30歳
313	癸酉	BC50	崇神48年	13	垂仁天皇 皇太子24歳	BC05	垂仁25年	9
314	甲戌	BC38	崇神60年	14		BC04	垂仁26年	10
315	乙亥	BC36	崇神62年	15	誉津別命 誕生	BC03	垂仁27年	11
316	丙子	BC33	崇神65年	16		BC02	垂仁28年	12
317	丁丑	BC30	崇神68年	17	120/168歳	1	垂仁30年	13 景行天皇 皇太子
318	戊寅					3	垂仁32年	14 日葉酢媛命 薨去
319	己卯	71	景行元年	1	47/78/82歳	5	垂仁34年	15
320	庚辰	72	景行2年	2	皇后 播磨稲日大郎姫	6	垂仁35年	16 天下太平
321	辛巳	73	景行3年	3		8	垂仁37年	17 景行天皇 皇太子21歳
322	壬午	74	景行4年	4		10	垂仁39年	18
323	癸未	82	景行12年	5		58	垂仁87年	19 日本武尊・仲哀天皇 誕生
324	甲申	83	景行13年	6		59	垂仁88年	20 天日槍
325	乙酉	87	景行17年	7		61	垂仁90年	21
326	丙戌	88	景行18年	8		70	垂仁99年	22 140/153歳
327	丁亥	89	景行19年	9				
328	戊子	90	景行20年	10				
329	己丑	95	景行25年	11				
330	庚寅	97	景行27年	12	日本武尊 16歳			
331	辛卯	98	景行28年	13				
332	壬辰	110	景行40年	14				
333	癸巳	121	景行51年	15	成務天皇 皇太子			
334	甲午	122	景行52年	16	播磨稲日大郎姫 薨去			
335	乙未	123	景行53年	17				
336	丙申	124	景行54年	18				
337	丁酉	125	景行55年	19				
338	戊戌	126	景行56年	20				
339	己亥	127	景行57年	21				
340	庚子	129	景行58年	22				
341	辛丑	130	景行60年	23	106/137歳			
342	壬寅				仁徳天皇・履中天皇 誕生			

日本武尊 天

